

入所施設の敷地内における GH の設置に係る意見募集 <H27. 10. 20 時点結果>

1. 意見募集対象

自立支援協議会委員

2. 募集結果

委員数：21 内、回答数：2（回答率 9. 5%）

賛成：1 条件付き賛成：1 反対：0 その他：0

3. 意見概要

（1）賛成理由・考え方等

入所施設の敷地内 GH は地域移行ではないとする考えもあるが、家族や地域住民との交流などを可能にする施設職員の考え方や行動次第だと考える。

夜間支援経験のある職員の確保や緊急時のバックアップ体制が確保しやすいことを考慮すれば、入所施設の敷地内に GH を設置することで入所待機者数を少しでも減少することが可能になるため賛成。

入所施設はある程度の敷地の猶予がある場合もあり、新たな土地取得等の負担が軽減される。また、バックアップ施設として、24 時間職員が勤務しているということもあり、敷地内なら、緊急時にも対応することができる可能性は高まる。特に、家族や利用者の中には困ったときにすぐ対応してもらえるかどうか不安な人も少なくない。入所施設がバックアップ施設となっている場合は、24 時間体制の中でサポートが期待できるという評価も期待できるのではないか。

そもそも GH はどのような環境に設置することが望ましいのかという問題かと思うが、利用者により、何を重視して選択するのかそれぞれ違うのではないか。

困ったときすぐ対応してもらえる支援体制を重視する人、あまり管理されず自由度の高い生活を希望する人、住宅地の中より閑静な環境で暮らしたい人、同居する人たちの障がいや傾向を重視する人、など、選択の際には多様な要素があるのではないか。

GH を設置する場合は、いくつかの条件を満たさなければならないという要件を設けることは GH の望ましい在り方としては理解できるが、地域内独立型、施設併設型、アパート型など多様な形があってよいのではないか。問題は「GH が利用者の希望により選択できるほど数が無い」というのが現状ではないかと思う。「誘導したい施策」のねらい・期待も理解できるが、あれもこれもと条件を付けるとハードルも上がってしまう。

ちなみに、どの世界でも重度への支援は後回しになりやすい。どのような形式でもそこで入居者の QOL の向上をどう図るかは運営を行う者の課題であると考え